

対象年度	令和3年度	総合計画実施計画策定及び行政評価シート							
事務事業名	家庭児童相談室運営事業						予算事業名	家庭児童相談室運営経費	
予算科目	会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令	結城市家庭児童相談室設置規則
		03	02	01	0602	経常経費			
総合計画体系	1ともに支えあい、安心して暮らせる社会福祉の充実(保健・福祉) 1-3安心して子育てできる児童福祉の充実(児童福祉) ③子育て家庭への支援 3子育て相談の実施						事業の区分	主要事業 重点事業	
								担当課係等	子ども福祉課 相談支援係
	事業期間	継続(昭和44年度～年度)							
	【めざす姿(意図・どのような状態になるのか)】 家庭における児童の健全な養育、福祉の向上を図る。 女性問題相談者(DV被害者含む)が安心して生活できるようにする。						【事業開始のきっかけや他市の状況など】 近年虐待件数の急増等により、緊急かつより高度な専門的対応が求められる一方で、育児不安等を背景に子育て相談ニーズも増大しており、こうした相談に関して、多様な機関によるきめ細やかな対応が求められている。		
【手段(事業内容・どのようなことを行うのか)】 家庭児童相談室開設(月～金 8:30～17:15)緊急時対応24時間 家庭児童相談員3人で対応(うち女性相談員2人) 【相談内容】 虐待(身体的・心理的・性的虐待、ネグレクト) 育成(不登校、いじめ、引きこもり、家庭内暴力) 障害(言語障害、自閉傾向、発達遅延) 非行 【虐待児童対応:一時保護】 【DV被害者対応:一時保護】						【対象(だれに対して・何に対して行うのか)】 18歳までの子どもとその家庭 女性問題相談者(DV被害者含む) 【事業をとりまく環境の変化】 年々児童相談及び女性相談の多様化・複雑化が進んでいる。			
【令和3年度 事業内容】 家庭児童相談室内面接相談、電話相談 家庭訪問等による相談・支援 学校、保育所訪問等による支援児童の把握 (関係各所との連携) 虐待対応 DV被害者対応 国の方針に基づくケース情報共有システム の導入			【令和4年度 事業内容】 家庭児童相談室内面接相談、電話相談 家庭訪問等による相談・支援 学校、保育所訪問等による支援児童の把握 (関係各所との連携) 虐待対応 DV被害者対応			【令和5年度 事業内容】 家庭児童相談室内面接相談、電話相談 家庭訪問等による相談・支援 学校、保育所訪問等による支援児童の把握 (関係各所との連携) 虐待対応 DV被害者対応			
■事業費									
財源内訳 歳出内訳 備考	R01年度		R02年度						
	国庫支出金	0	0						
	県支出金	0	0						
	地方債	0	0						
	その他	0	0						
	一般財源	65	234						
	歳入計(千円)	65	234						
	節(番号+名称)	金額(千円)	金額(千円)						
	08 旅費	0	42						
	10 需用費	12	14						
11 役務費	0	43							
13 使用料及び賃借料	25	0							
17 備品購入費	0	38							
18 負担金補助及び交付金	28	97							
歳出計(千円)(A)	65	234							
伸び率(%)		260.00							
備考	総合計画 58ページ 予算書 86ページ								

令和元年度行政評価シート

■指標

種類	指標名	単位	R01年度	R02年度	R03年度
活動指標	家庭相談員配置人数	人	目標 4.00	3.00	3.00
			実績 4.00	0.00	0.00
成果指標	女性相談員配置人数（兼務）	人	目標 1.00	2.00	2.00
			実績 1.00	0.00	0.00
成果指標	相談件数（女性相談を除く）	件	目標 100.00	90.00	90.00
			実績 87.00	0.00	0.00
成果指標	女性相談件数	件	目標 68.00	50.00	50.00
			実績 49.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	児童相談及び女性相談の件数は横ばいではあるが、必要性は高い。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	児童福祉法において、市の行う業務とされている。
	手段の妥当性	A 妥当である	児童福祉法において、市の行う業務とされている。
効率性	コストの効率性 ・人員効率	B どちらとも言えない	令和2年度から、相談員の人数を4人から3人に減し、勤務日数を週3日から週4日に増やした。今後評価必要。
公平性	受益者の偏り	A 偏りは見られない	相談者の偏りはない。
有効性	成果向上の余地	B どちらとも言えない	令和2年度から、相談員の人数を4人から3人に減し、勤務日数を週3日から週4日に増やした。今後評価必要。
進捗度	事業の進捗	A 順調である	令和2年度から、相談員の人数を4人から3人に減し、勤務日数を週3日から週4日に増やした。今後評価必要。

総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください

令和2年度から、相談員の人数を4人から3人に減し、勤務日数を週3日から週4日に増やした。今後評価必要。

対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか

令和2年度に設置予定の「市子ども家庭総合支援拠点」業務とのすり合わせを行っていく。

■方向性

1次評価（1次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策））
<input checked="" type="checkbox"/> 拡充（人・モノ・カネ等の拡充) <input type="checkbox"/> 改善改革しながら継続 <input type="checkbox"/> 現状のまま継続（改善・改革なし） <input type="checkbox"/> 統合・新規事業への展開 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止・終了 <input type="checkbox"/> 予定どおりの要求 <input type="checkbox"/> 一部改善の上要求 <input type="checkbox"/> 今回は見送り <input type="checkbox"/> その他の処置
方向性の具体的な内容
児童虐待案件対応の他、一般養育相談等の対応も複雑化しており、「子ども家庭総合支援拠点」の設置が必要であり、専門職の配置やケース管理（連携）のためのシステム導入が不可欠となっている。
2次評価（2次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策））
<input type="checkbox"/> 拡充（人・モノ・カネ等の拡充) <input checked="" type="checkbox"/> 改善改革しながら継続 <input type="checkbox"/> 現状のまま継続（改善・改革なし） <input type="checkbox"/> 統合・新規事業への展開 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止・終了 <input type="checkbox"/> 予定どおりの要求 <input type="checkbox"/> 一部改善の上要求 <input type="checkbox"/> 今回は見送り <input type="checkbox"/> その他の処置
企画調整会議の意見・考え方（1次評価者と同じ場合も記入） 財政状況と可能な限り調和を図りながら進める。